

世界に羽ばたくサピックスの卒業生

近藤 雄生の“こんな生き方” (17)【最終回】

新年あけましておめでとう！3年生はいままさに入試の直前だと思うけれど、体調は万全かな？準備万端な人もそうでない人も、とにかく自分が持っているものをすべて試験で出し切れることを願っています。ぼくは大学受験のとき、「もし試験前日寝れなくても、目をつぶっているだけで体は休まる」と聞いて安心して、よく寝られたような記憶があります。とにかく元気でがんばってください！さて、ぼくは日本に帰ってきて4ヵ月ほどが経ったけれど、いままも新生活を軌道に乗せるべく奮闘中です。みんなと同じでこれから新学年、というか人生の新たなステージに入ります！

日本社会復帰に悪戦苦闘中

いまぼくは京都に住んでいます。京都は妻の故郷ということもあって、これからしばらくこの町で生活してみることになりました。文化も風習も、東京とは結構違うから自分にとってはとても新鮮で、なんだか、中国に住みだしたときのような感覚で毎日を過ごしています。日本はこれまであまり旅をしたことがないし、東京以外に住んだこともなかったので、これからは日本をもっと見たいなと思っています。

しかし大変なのは仕事探し。日本に帰ってきたときは、正直どうやって生きていこうかというのが明確ではなく、いろんな可能性を考えていました。眠っているはず(?)の理系の知識を掘り起こしてIT系の会社で働きながら本を書く、という方向も考えたのだけれど、思っているほど状況は甘くありませんでした。知っての通りの大不況で、帰ってきた時期も悪かったんだけど、5年間もふらふらと海外で過ごしていた経験(一応ライターとして働きながらの5年だったことをアピールしたものの(笑))は、とりあえず日本で会社に就職するのであれば、あまりプラスにはならないようです。

そんな厳しさを体感しながら、やはりぼくの場合は、この5年間の経験をダイレクトに活かすべく、これまで同様にフリーランスでライター業や翻訳業などを仕事として生きていくのがいいのかもしれない、と思い始めています。



▲2008年9月、ザンビア人の家族と。旅の最後の1ヵ月。(08年9月)



▲オーストラリアのイルカボランティア仲間と。日本を出てからまで8ヵ月。(04年2月)

現実を見ながらも理想を追いいたい

自分は、これやって生きていきたいという欲求がたぶん強い方で、なんとなく仕事をしてなんとなく人生が過ぎていってしまうのだけは避けたいと思っています。とはいえもちろん、それはあくまでも理想であって、いま自分が京都で感じているように、生きていくということは甘くないし、多くの場合、まずは生活のためということで妥協しながら進んでいくのが現実だと思います。誰でも理想や夢があって、同時に現実がある。その現実をちゃんと直視していかないと、生きることは難しいときもあります。

しかしそれでも、人は可能な限り、理想や夢を追いかけながら生きていった方がいいのではないかと、ぼくは強く感じます。

理想があるからこそ、いま自分の目の前にある現実がどういふものなのかが分かってくるし、結局生きるとは、その理想と目の前の現実の間にあるギャップを埋めていくことなのかもしれない、とも思うのです。

旅をしていろんな人に会ってきた中で魅力的だなと感じるのはいつも、一生懸命に自分の道を生きている人、何かに集中して日々エネルギーを注いでいる人だったような気がします。

これを読んでくれているみんなも、一人ひとりやりたいことは違うだろうし、考えていることも違うはずですが、そういう自分らしさを大切にして、是非自分が一番したいと思う生き方を追求してってください。

それは仕事として何をやりたいかということだけではなく、もっと広く、どうやって生きていくか、ということも含まれます。旅をしてみて実際に生き方は無数にあるんだなと実感しました。

いまの時代、旅をするにしても、人とコミュニケーション

ョンを取るにしても、技術の発展によってあらゆることがとても簡単になっています。そのために以前に比べていろんな物事が薄っぺらで無味乾燥になっているように感じるのですが、その一方、これだけ技術が発展したからこそできることもまたたくさんあることに気づかされます。ぼくがこうしているいろんな国からみんなに向けて文章を書いてこられたことも、インターネットなしでは不可能だったはずですよ。いまの時代のよさを活かして、それぞれ自分自身の生き方を作ってほしいと思います。

まず、一步を！

もちろんみんなの多くは、自分が何をしたいか、どうやって生きていきたいかなんて、まだ明確ではないと思います。でも、可能性は無限にあるんだ、ということだけは信じていてください。

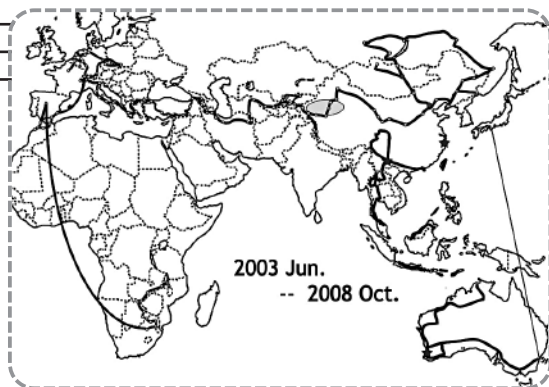
何かをやりたいと思ったら、後先のことをあまり考えすぎずに、とにかく行動に移してみてください。大抵のことはなんとかなるものです……なんてあまり無責任なことはいえないけれど、ぼく自身、いろいろと不安を抱えながら5年半前に日本を出たものの、実際には思っていた以上の充実した生活ができたし、予想以上の財産が自分自身の中に残ったことから、そう確信しています。だからとにかく、何事も恐れすぎずに、まずは一步を踏み出してみてください。その一步が、夢を現実に変え、人生を決めていくはずですよ。

ある作家が本に書いていたのだけれど、彼が大学進学に当たって自分の進路を相談するために高校時代の先生を訪ねていきました。すると先生はこう断言したそうです。「あなたがほんとうにやりたいことをやればいい。人はほんとうにやりたいことに従事すれば、必ず食べていくことができます」

勇気づけられる言葉です。「ほんとうにやりたいこと」を見つけることが難しいということはあるけれど、もし、これだ！というものがあれば、躊躇せずにそこに向かっ



▲アルメニア南部を早朝バスで北上中に。雪景色と雲海の向こうから朝日が昇る様子が印象的でした。(08年2月)



▲2003年から2008年までのこの旅の全ルートです。オーストラリアからスタートしてアフリカまで。

て邁進してください。そうやって生きていけば、もし失敗したとしてもきっと新たな道が開けるはずですよ。……とみなに言いながら、自分に言い聞かせてもいたりして(笑)。

とにかくそのためにも、まずは勉強を含めていまできることを頑張ってください！そして自分を信じて、自分に正直に、楽しく生き抜いていってください。この連載を読んでくれて、本当にどうもありがとう！またどこかで！

質問コーナー

成城校3年 日本のクリスティアーノ・ロナウドくん

Q. この仕事で得ることは何ですか？

A. いろいろあるけれど、一番は「出会い」かな。それまで自分とは全く関係のなかった人や文化や生き方に出会って、話を聞いて、それを自分なりに表現していくことは、本当に自分自身を変えていくし、それがいまの自分を作り上げているんだなって感じます。

調布校1年 サビ生くん

Q. どのくらいの国を回ったのですか？

A. これまでに行った国は40カ国ほど。でも地球上には200以上の国や地域があるから、ほんの一部ですよ。それに、一つの国の中にもさまざまな場所や文化があるから、生きているうちに実際に自分で見ることができる世界は、ほんの少しだけなんだと感じます。

プロフィール

近藤 雄生 (こんどう ゆうき)



1976年東京生まれ。サビックス(3期生)から筑駒高へ進学。その後、東京大学大学院を経て、現在はルポライター。

2003年より日本を離れ、アジア各国やオーストラリアから週刊誌、月刊誌などに記事・ルポルタージュを寄稿。08年8月より出ているユーラシア大陸横断～アフリカの旅を終え10月帰国。日本を出てからの日々は以下のブログにて。

「From2003」 <http://bloggers.ja.bz/ykon>